

令和２年度 稲沢市地域自立支援協議会 第２回権利擁護推進部会 議事要旨

[日 時] 令和２年 11 月 10 日（火）午後 2 時～午後 3 時 30 分

[場 所] 稲沢市役所 第 1 分庁舎 2 階 第 2 会議室

[出席者] 権利擁護推進部会委員 4 人、事務局 3 人、その他 2 人

[欠席者] 権利擁護部会委員 1 人

[議 事]

1 協議事項

(1)障害のある方の余暇活動、性教育の課題について

○前回の部会で、障害のある方の余暇活動に関して、地域に資源が少ないこと、性について正しい知識がない方があり、支援者がどう関わって良いのかと思う事がある課題を説明した。

○余暇活動については障害福祉計画で当事者へアンケートを取っているなのでその結果も踏まえて考えていくこととなった。

○性教育については、特に知的障害がある方は、丁寧な説明や支援が必要である。当事者に対しての研修は、軽度の方なら理解できるかもしれないが、中度・重度の方には保護者へ説明しないと難しい。福祉施設の支援内容に含めることは困難ではないか。家族会の懇談会などで理解を求めていくと良いかもしれないが、保護者も偏見があり難しいかもしれない。ただ権利であり支援があればできるのだから取り組んでいくのが良いといった意見が出た。

○障害福祉計画について、市が目指す基本的な考えは、全ての市民が障害の有無により分け隔てられず共生する社会の実現をめざし、障害者が必要な支援を受けて自らの決定に基づき、社会のあらゆる活動に参加し、自己実現を目指すこと。

○障害福祉計画のアンケートは、市内の障害者 2,000 人に郵送で配布した。回収は 47 %。権利擁護に関することとして、障害や病気の理解に関する事が不安という意見があり、周囲の偏見や体調について分かってもらえない状況がある。

市が暮らしやすいかと聞いたところ、そう思わない方が 30 %弱ある。思わない理由としては、主に障害者の理解に関すること要因となっている。

将来の生活に対する不安については、生きがいを見つけることができるか不安に思っている方が全体の 3 割ある。生きがいは、余暇の充実に関わるのではないかと思われる。精神障害の方が多く 43.6 %ある。

日中活動や外出については、外出の目的としては買い物が一番多い。趣味やスポーツで出掛ける方は 12 %程度。グループ活動への参加希望は 4.3 %であった。

余暇活動への希望については、旅行や買い物が多い。精神障害の方は、特に何もしたくない方も 19.8 %いる。18 歳未満の方の長期休暇や放課後の希望については 43.9 %が同世代の方と遊びたい。

権利擁護については、差別をどんな場面で感じたかという事も聞いた。全体を通して障害やご自身の状態を理解してもらえるか心配が多くあることが分かる。安心して生活するには差別をなくす支援、障害のある方もない方も、お互いが交流できる機会、スポーツや文化活動への支援を希望する方があった。

- 以前の計画から、どこがどう変わるのかが分からない。
- 今回の計画の目標について国指針では障害者の意思決定支援が一番の項目に来ているところが大きい。地域のあらゆる住民が支え手と受け手に分かれず共生社会を実現する取り組みを進める考えの普及が大切だと言われている。地域で希望する暮らしができる基盤づくりが重要で、これらに力を入れて行くことになる。
- 2点質問があり、1点目は、第6期福祉計画は、国指針を基に作成しているが、県の第6期計画との関連はあるか。県はまだ出ていないのか。もう1点、アンケート報告の中で、外出にお金がかかるという回答が、精神障害で37.2%になっている。これは公共交通機関の運賃の減免が関係しているのか。身体障害と知的障害ではJRと名鉄は半額だが、精神障害が対象となっていないことが関係しているか。
- まず、県計画との関連については摺り合せは行ってはいない。国指針に基づいている。国指針は県を通じて届くが、県としてのものは何も届かないため行っていない。これまでも何もない。地域の実情もあるので、県全域では把握できないかもしれない。
- 権利擁護センターなど色々、各市町村で整備しているが、なかなか県の方針に従って同じように進んでいないのは連携とか繋がりがあまりない為かなと思う。
- 次に、精神障害の方がなぜ外出にお金がかかる回答されたのか、理由は分からない為関連は分からない。
- 精神障害者連合会からも、JRや名鉄の費用を半額にして下さいと働きかけをしている。昨年3月頃に国会で採決したが、なかなか動きが鈍いので進んでいない。実現した時には37%が下がることを期待したい。
- 差別がなくならないのが一番問題かと思う。9月頃、精神障害がある方の隣人が、この方を入院させた方が良く、と市役所へ相談した。昔は火を付けたりした行動はあったが今はないとのことで落ち着いている方だった。隣人も自分の家族がなくなり精神的に不安になっていて、昔のことが思い出されて心に差別の思いや、怖いイメージがあるのではと感じた。
- 性教育の話に戻る。昔研究された内容を教えてほしい。
- 教員をやっていた当時、大学に1年間研修に行き、知的障害の児童生徒への性の指導について研究した。30年も前になるが、今も世の中あまり変わっていないと思う。当時、問題にしたのは子どものことで、元々性教育を中学校でやっていたが、一般の人の性教育もなかなかやれなかった。先生がその気にならないとダメ。先生に先に研修をするが、やはり偏見がある。一番笑い話だと思うのは宴会で猥談をしていた先生が、一番抵抗をしたこと。宴会で話ができるのに教育できない。それが現実。性を真

剣に考え、受け止められないと性教育は出来ないと言うのが結論。

中学校から小学校に代わって、障害児の性の問題を研究した。その時一番問題になったのは、誰がやるかということ。家庭においても性教育は必要で、学校とどう役割分担するかアンケートをとったら、お互いにぶつけあいになった。それでは上手くいかないで、両方が協力してやるということが研究の結論。その当時でも性に関することを口にするべきと思う先生は57%くらいしかなく、慎むべきとするのは10%くらい。障害児に実施しているかについて、少しやっているのは25%で、あとはやっていないと言う結果だった。当時、親に話を聞いたら、思春期になって異性に対する興味が出て、禁止していると話され、良くないと思った。授業で知的障害の方にどう教えるか実践もした。大人の問題も色々あり、当時から、成人の問題は本にもなっていて、最近はEテレでも取り上げられている。身体障害者同士が恋愛をし、性行為も介助者がいて、支援している。新潟では自慰行為を介助する人が有料で派遣されている。大人の問題は正面から取り上げられることは少ないが、いわゆる風俗でお金を払い、性欲を解消するという風俗の側からのレポートもある。障害のある方が自分達の性欲を満たそうとすると十分なことはできない。元々性教育は生殖の問題と、快楽の性の問題と2つある。分けて考えないと難しい。人間はほとんどが生殖より楽しむ性をやっている。それをどうやって充実するかはこの社会全体の課題でもある。多くの男性が風俗やビデオで満足している、そういうことで良いのかということ。現実はそのような問題がテレビでも取り上げられるようになってきて障害者も自由に話せるようになってきた。自分も教え子が知的障害だが、1組だけ夫婦になった。お子さんもできて周囲の支援もあり、小学校へ入る。時々電話があり、平仮名くらいしか読めないで、市役所からくるものが困るという。なぜか市役所を怖がる。福祉課にいる社協職員に、何でも教えてもらうように話をしている。支援があれば障害があっても結婚して子育てもできる。それまでは、言葉遣いもぞんざいな子だったが、子どもができて丁寧になった。親になると変わると思った。

- この課題を解決するためには、どうすべきか。余暇活動で年数回イベントをしたり、性教育のカリキュラムをすれば良いのか、その辺がはっきりしていないとどう進めたらよいか分からない。
- どんなことをしてみれば良いかということで、前回会議ではこの部会だけでは難しいと言う意見が出ていたので作業部会の案を作成してみた。(委員について説明)
- この他、助産師さんも加わっていただければどうかということも考えている。女性が少ない為、女性の意見があった方が良いと思う。
- 女性が多く参加していただくのは良いと思う。
- これで進めていき、委員の了解が得られたら会議を行いたい。

(2)障害者虐待の対応状況について

- 今年度、4月から10月までの対応状況について、相談ケースは9件。相談が1件、あとの8件は警察からの通報。警察からの通報が多い。昨年度は年間で6件だった。被虐待者は身体障害が2人。知的障害が1人、精神障害が6人。今年は今のところ精神障害が多い。昨年は知的障害が多かった。虐待者は養護者が8件、施設従事者が1件。類型は身体的虐待が9件。(ケースの概要について説明)
- 9例を通じて、養護者と生活態度をめぐり口論になることが多い。障害者が、自身で警察に通報するケースが多い。今年度は精神障害が多く、当事者、養護者ともに精神疾患がある方もある。社会参加について困っている方が多い。関係機関それぞれが、虐待防止に高い意識をもって関わる必要がある。警察通報が増えていることは意識が高い印象がある。障害者が身を守る方法を知っていると捉えることもできる。早期の相談ができるよう意識向上に努めたい。
- 精神障害の方は家庭内暴力が多くある。子どもが親に対して暴力する事は沢山ある。それは虐待には表面上ならないが、親の対処の仕方により虐待として現れるのかと思う。当事者の本音が何か分らないと、親子関係の中で修復、防止できないことがある。大阪大学のかげやま先生の講演がDVDもありネットでも見られる。当事者の本音がみられるので防止できるのではないかと思う。
- 最後のケースは介護殺人になる前に対応していただくと良いと思う。
- 暴力の当事者はやっている間は良く分かっていない。気づいた時には手を上げたことを後悔している。統合失調の病は深い。本音は落ち着いた時しか言えないし、第三者には分からないこともある。DVDを参考にさせていただくと良い。